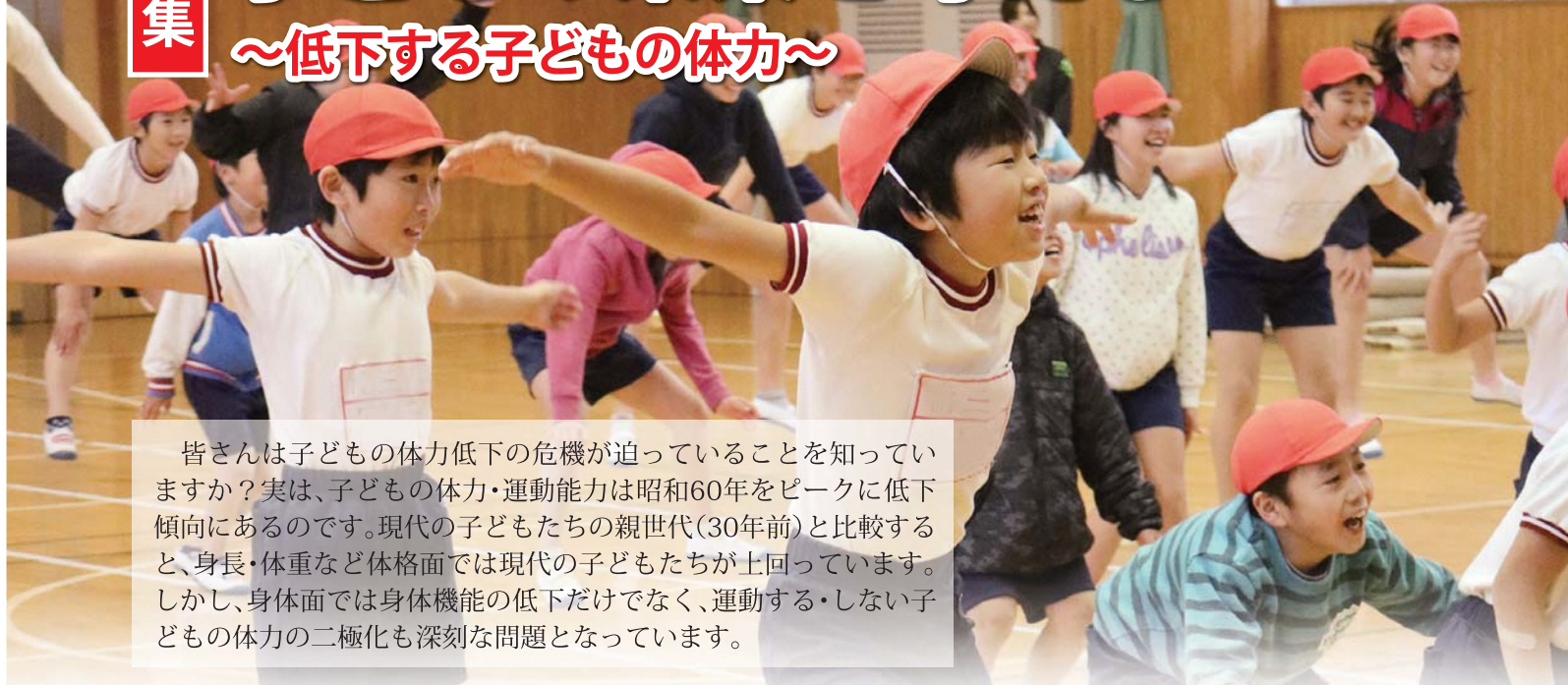


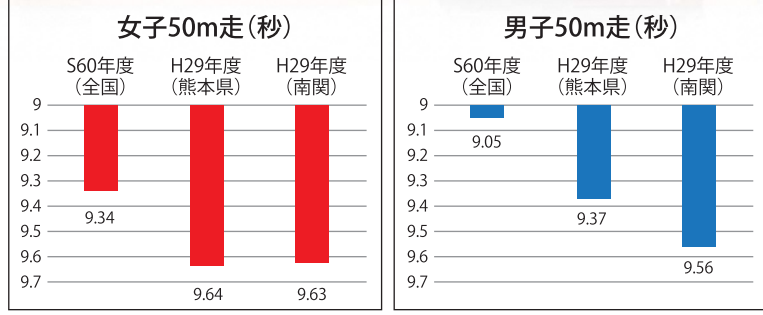
特集 子どもの未来を考える

～低下する子どもの体力～

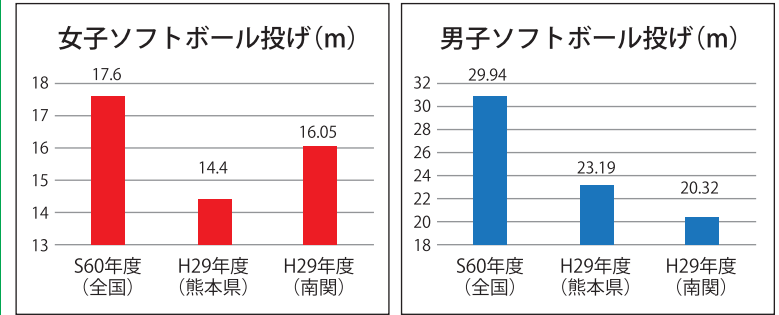


皆さんは子どもの体力低下の危機が迫っていることを知っていますか？実は、子どもの体力・運動能力は昭和60年をピークに低下傾向にあるのです。現代の子どもたちの親世代(30年前)と比較すると、身長・体重など体格面では現代の子どもたちが上回っています。しかし、身体面では身体機能の低下だけでなく、運動する・しない子どもの体力の二極化も深刻な問題となっています。

町の子どもたちの現状
左と下のグラフ①②は小学五年生の50メートル走とソフトボール投げを比較したものです。男子は昭和60年の全国平均、平成29年の県平均と比較して下回っていることが分かります。



グラフ①



グラフ②

町の子どもの体力向上を図るため

行政・保育園・学校・民間団体・保護者など『地域総がかり』で取り組みを行う「南関子ども体力向上推進コンソーシアム」では、次のような活動を行っています。

【構成団体】南関町教育委員会・こどもの丘保育園・南関各小中学校・九州看護福祉大学・西日本幼児体育研究所・NPO法人ひとづくりくまもとネット・株式会社ビッグ・スポーツ推進員・NPO法人エイライフなんかん



▲マットの上で見本を見せるサポーター(四小)



▲スタートを指導するサポーター(一小)

課題解決に向けて

体育サポーター派遣と公開授業
学校の体育の授業に専門性の高いスキルを持ったサポーターを派遣。児童への個別のアドバイスを安全面の強化、教職員の技術面でのサポートを実施しました。

また、南関第四小学校二年生の公開授業を実施し、同コンソーシアムなど計18人が参加しました。

教職員向け
アドバイザー派遣
子どもたちが学校生活の中で、運動に接する機会を増やすための働きかけとして、学校での仕掛けづくりの提案から遊びの場の製作を第一小学校、第二小学校をモデル校として実施。



▲中庭に描いた円を使って遊ぶ児童たち(二小)

スペシャル授業の開催



▲リズムに合わせて楽しく動く児童たちと田中光さん(三小)

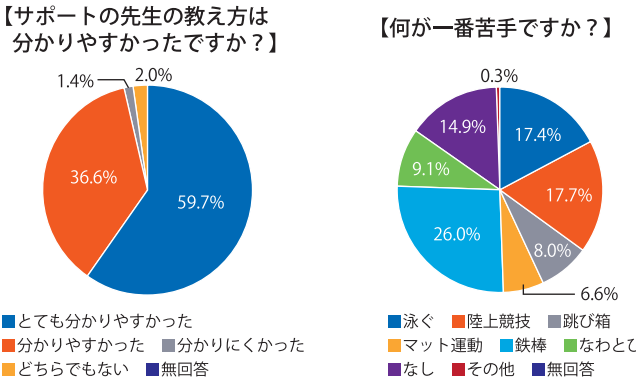


▲手前のワニの歯～歯の間は、各学年ごとの立ち幅跳びの全国平均(一小)

南関第三小学校の4・5・6年生を対象に、株式会社よしもとクリエイティブ・エージェンシーと連携し、オリンピックやお笑い芸人が体育の授業を開催。基礎体力づくりのもととなる体づくりの運動を行いました。
子どもたちがいきいきと楽しみながら体を動かすことができるプログラムとして、田中光さん(元体操アトランタオリンピック選手)が指導。お笑い芸人の安井まさじさんとの面白くキレのある会話のやり取りで、笑いとお声に包まれていました。

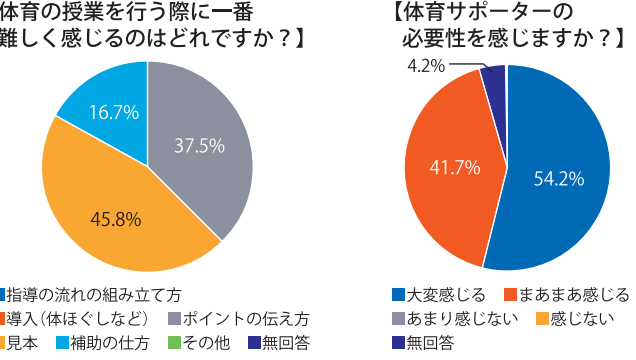
体育サポーター授業に関するアンケート結果

◆児童アンケート(350人)



【感想】『僕はサポーターの先生に入ってもらって、苦手な跳び箱や泳ぐことが前より上達しました。これからもいろんなことを教えてもらい、できないこともできるようになりたいです』

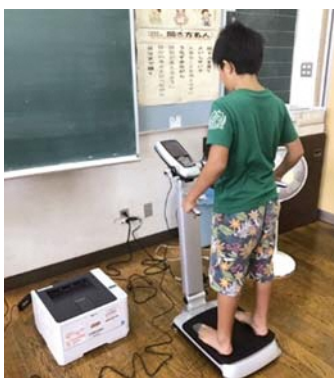
◆教員アンケート(24人)



【感想】『ポイントを的確に教えてくださるので、その後の指導が参考になりました』『運動が苦手な子への支援の仕方、声掛けの仕方が勉強になりました』『段階をおっての指導の仕方が勉強になりました』

体組成測定

測定から得られる個人データで自分の身体の構成を知り、興味関心を高める体組成測定を実施。



▶体組成計のり測定をする児童(四小)

子どもたちの未来のためにできること

平成28年度から2年間にわたり、同コンソーシアムでは「地域総がかり」の取り組みの充実を目的として行ってきた。事業を行う中で見えた課題は、一つ目には右のアンケートの結果から、児童・教員ともに「鉄棒が一番苦手である」との回答があり、教員が苦手とする分野が子どもの苦手な種目と関連していることと推測しています。二つ目には、体組成の結果から体脂肪率30パーセントを超

える小学生が全体の約10パーセントおり、肥満による高血圧や高脂血症のリスクが高まるだけでなく、将来の糖尿病や心臓病などの生活習慣病のリスクが高まる危険性があることから、今後は改善に向けての対応も必要になると考えられます。
子どもの体力向上の底上げのためには、本事業の働きかけだけでなく、住民の皆さんも一緒に生涯にわたる体力の問題について、自分のこととして認識できるような意識改革の働きかけを行っていくことも必要だと考えています。